

年 組 名前

2020年7月2日付尾張版他

ピンクバッタ見つけた

一宮市の大和西小3年の森部志佑太君(8)が、ピンクのバッタを同市大和町苅安賀の道路で見つけた。岐阜市の名和昆虫博物館の名和哲夫館長(65)によると、写真や「体長5センチほどで飛ばなかった」という情報から、ショウリヨウバッタの幼虫とみられる。(下條大樹)

志佑太君は先月二十日夜、父慎司さん(四)と妹の心結ちゃん(六)と歩いて帰宅途中、道路の縁石の上にいるピンクのバッタを見つけ、「ピンクのバッタがいる」と叫んだ。慎司さんが駆けつけ、スマートフォンで撮影。志佑太君は「かわいいと思った」と振り返る。名和館長によると、ショウリヨウバッタは五〜六月にふ化し、脱皮を繰り返して夏に成虫になる。成虫の体長は雄が四〜五センチ、雌は七〜八センチで、多くは緑色か褐色になる。一方でまれにピンク色の個体もある。成虫で羽までピンク色



森部志佑太君が見つけたピンクのバッタ
一宮市大和町苅安賀で(慎司さん提供)

一宮の小3森部君道路で

の個体は珍しいが、幼虫では時々見られるという。森部さん家族は、バッタの命を思っ捕まえなかったが、名和館長は「見つけている。たらせひ、飼育してほしい。子どもの知的好奇心を育て、将来の科学者を育てることにつながる」と語っている。

※大人の人に記事を読んでもらって考えましょう。

問1: ショウリヨウバッタは、どのようなじゅんに育ちますか。言葉を書き入れましょう。

たまご → () → 成虫

問2: バッタやトンボの育ち方は、チョウやカブトムシの育ち方とくらべて、どのようなところがちがうでしょうか。

Blank rounded rectangular box for writing answers.

【活用にあって】

ワークシートNo.146「ギフチョウ」では、チョウの育ち方を学習しました。今回は、バッタです。チョウの育ち方が「卵→幼虫→蛹→成虫」という順序でしたが、バッタは「卵→幼虫→成虫」の順です。変態の仕方の違う昆虫を比較し、その差異点について考えることがポイントです。

バッタの住みかは草むらです。体の色と似ているので、隠れ場所になります。ところが、記事で紹介されているバッタはピンクです。草むらにいても、目立ってしまいます。なぜでしょう。疑問がわきますね。

2020年8月13日付中日新聞にも、ピンクのバッタが紹介されています。次ページに掲載します。

解答例

問1：よう虫^{ちゅう}

問2：バッタやトンボは、さなぎになることがないところ。

ピンクのバッタが飛んだ



犬山市善師野台の会社員
高橋光一さん(五三)方でピン
ク色のバッタが見つかり、
大事に飼われている。写

真。写真を見た名和昆虫博
物館(岐阜市)の名和哲夫
館長(六五)は「ショウリヨウ
バッタの幼虫で、大きさか
らすると雌だろう。極めて
珍しいわけではないが、ざ
らに見られるわけでもな
い」と話している。

五日に庭で草むしり中に
長女のおちゃん(三三)が「ピ
ンクが飛んだ」と声を上げ

たので気付いた。体長七センチ
ほどで、「ピンクのバッタ
がいる」と聞いたことはあつ
たが、見たのは初めて」と
妻昭子さん(四三)。珍しいの
で透明な昆虫ケースで飼っ
ている。

名和昆虫博物館には年
三、四件、ピンクのバッタ
の情報が寄せられる。高橋
さん方のバッタについて、
名和館長の見立ては「その
うちもう一回、脱皮するで
しょう」。新しい翅(はね)がそれ
でもまだピンクなら、珍し
さの度合いがぐっと上がる
という。

(三田村泰和)

犬山 高橋りおちゃん見つける